

'93 ヨーロッパ向けモデル
ヤマハ『GTS1000』『GTS1000A』
について

1992年12月

ヤマハ発動機株式会社

本社広報室 ● 〒438 静岡県磐田市新貝2500
東京広報課 ● 〒104 東京都中央区銀座

TEL.0538
TEL.03
FAX.0538
FAX.03



開 発 の 狙 い

欧州での“オーバー750cc”の需要はここ数年、毎年確実にステップアップしています。昨'91年は年間11万台を超える需要で、この数値は'88年の7万5千台に比較し約47%の伸長となっています。

ドイツ、フランスを中心に、イギリス、イタリア、スイス、スペイン等で全欧州需要の90%近くをみせるこのクラスでは、各社から多彩なモデルが投入され活性化が進んでいますが、おおむね「スーパースポーツ」性能を主眼とするモデル群と「ツーリング」性能を主眼とするモデル群に区分できると言えましょう。ヤマハ「FZR1000」は前者の代表的モデルとして、またヤマハ「FJ1200A」等は後者の代表的モデルとして、広くユーザーの支援を集めてきました。

こうした背景の中、“スーパースポーツ”と“コンフォートツーリング”のふたつのニーズを高次元でバランスさせ、'90年代の全く新しいスポーツツアラーを提唱するモデルとして企画にあたったのがヤマハ『GTS1000』『GTS1000A』です。

開発にあたっては、環境対応、経済性の追求、快適性の追求、各走行性能の一層の追求などを徹底して実施。具体的には、乗り易さを徹底追求した水冷1002ccエンジンの搭載、電子燃料噴射システムと三元触媒の採用、オメガシェーブシャーシコンセプトによる新開発フレームと片持タイプのニューフロントサスペンションの採用による高い操縦安定性の実現、そしてエアロダイナミックスを追求した外装部品やA.B.S.装着車の設定など、数々のニューフィーチャーを盛り込み、ビッグバイクの新しい醍醐味を提唱。

ある時は、スーパースポーツとしての爽快感を、そしてまたある時はアウトバーンでのタンデムクルーズの快適性を味わえる新時代のリッターバイクを完成させました。

主 な 特 徴

1. “ザ・ベスト・100ps” を実現した水冷 DOHC 並列 4 気筒 5 バルブエンジン

ヤマハスポーツ「FZR1000」に搭載して好評の水冷 DOHC 並列 4 気筒の基本コンポーネントをベースに、“スーパースポーツ”と“コンフォートツーリング”を主眼としてトルク特性を全面的に見直し、新しいパワーユニットを完成させました。吸気ポートの変更、カムプロフィール変更、圧縮比変更、吸排気系諸元変更などにより、とくに常用域での乗り易さとアウトバーンでの追い越し加速性能に優れた特性を実現。“ザ・ベスト・100ps”と呼ぶにふさわしいパワーユニットを誕生させました。

2. 電子燃料噴射システム

燃料供給には電子燃料噴射システムを採用。スロットルレスポンス、排ガス浄化性、対高地性、始動性、燃費性などに優れた性能を発揮します。

3. 三元触媒の採用

CO（一酸化炭素）、HC（炭化水素）、NO_x（窒素酸化物）など排ガス成分を浄化させる三元触媒を採用しています。排気抵抗が少なくコンパクト設計が可能なステンレス系ハニカム構造のモノリス型三元触媒で、ラムダセンサー付き燃料噴射とのコンビネーションで、エンジン性能を損なうことなく優れた排ガス浄化性を実現しています。

4. オメガシェープシャーシーコンセプトによる新フレームの採用

フレームには、新しいヤマハテクノロジーから生まれた新開発フレームを採用しています。オメガ（Ω）形状のアルミ砂型鋳造のメインフレームがエンジンを包み、前後のスイングアームをこれにジョイントさせた構造で、

フレームに求められる強度・剛性の確保を車体重心高以下においてすべて完結させる新しい設計思想から生まれたもの。マシンの低重心化、マスの集中化、剛性・強度部材としてのエンジンの積極的活用など数々のベネフィットを生み出しました。

5. 片持アーム・ニューフロントサスペンションの採用

フロントには、片持アームのニューサスペンションを採用しています。オメガシェープフレームとの同時開発によるこのシステムは、ロアアーム、アッパーフレーム、ナックルアーム、クッションユニット等から構成されるもの。フロントの操舵系とサスペンション系の機能をそれぞれ独立させ、①サスペンション性能の向上、②ジオメトリー・アンチノーズダイブ機能の達成、③強度・剛性の最適確保などを実現。またレイアウトの自由度も拡大し、その結果、変化の少ないハンドリング特性、優れた乗り心地、車両挙動の安定化、ブレーキング時の剛性感向上など走行性能のうえで数々のメリットを生み出しました。

6. コンフォートツーリングのためのニューフィーチャー

風防効果の高いニューフェアリング及びビルトインバックミラー、タンデムでもゆとりのある快適なポジションの設定、タンク部及びシート下部の収納スペース、ロングツーリングに対応できるクラウザー製サイドケース（オプション）の設定など、“コンフォートツーリング”に求められるフィーチャーを盛り込んでいます。

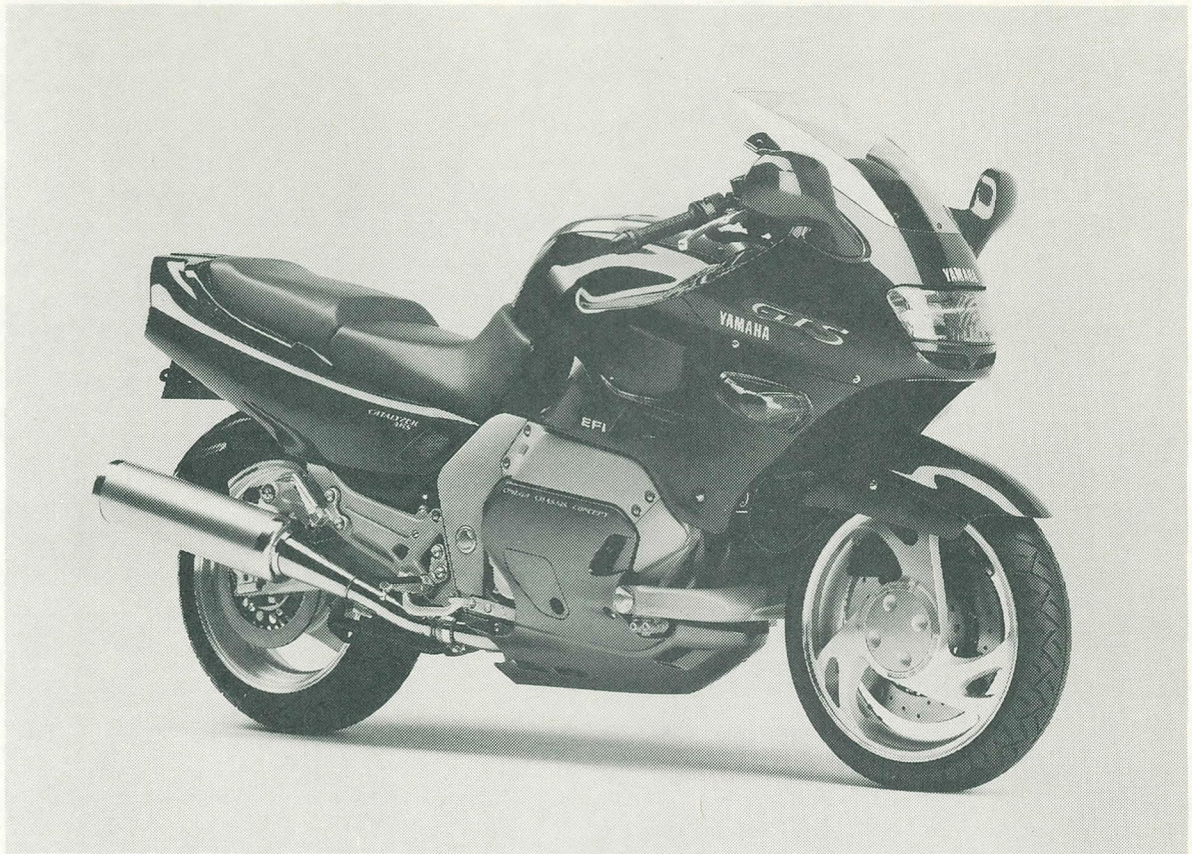
7. A.B.S.装着車の設定

バリエーションモデルとしてA.B.S.(アンチロック・ブレーキ・システム)を標準装備した『GTS1000A』を設定しています。

'93 ヤマハ『GTS1000A』『GTS1000』仕様諸元

()内は『GTS1000』

全長		2165mm
全幅		700mm
全高		1255mm〔Low〕、1320mm〔High〕
軸間距離		1495mm
シート高		795mm
最低地上高		135mm
乾燥重量		251kg (246kg)
エンジン種類		水冷4サイクルDOHC5バルブ
気筒数配列		並列4気筒
総排気量		1002cc
内径×行程		75.5mm×56.0mm
圧縮比		10.8:1
最高出力		100.6ps/9,000rpm
最大トルク		10.8kg-m/6,500rpm
スロットルボディ型式		AC34×4
始動方式		セル式
点火方式		トランジスタ
潤滑方式		強制圧送ウェットサンプ
オイル容量		3.2ℓ
クラッチ形式		湿式多板
変速機		常時噛合前進5段
1次減速比		68/41 1.659
2次減速比		47/17 2.765
変速比		1速=2.571 2速=1.778 3速=1.381 4速=1.174 5速=1.037
燃料タンク容量		20ℓ
緩衝方式(前)		スイングアーム
"(後)		スイングアーム
ホイールトラベル(前/後)		116mm/130mm
ブレーキ(前)		油圧式シングルディスク
"(後)		油圧式シングルディスク
タイヤサイズ(前)		130/60 ZR17
"(後)		170/60 ZR17



ヤマハ『GTS1000A』